

しつけについて

できるだけ心おだやかに取り組みたいのはみんな一緒。

しつけについて考えてみましょう。



なかなか言う
こと聞かなく
て…

しつけって大切

そして
ときどき大変

親もときどき
まよっちゃう

しつけってなんでしょう？

あらためて、「しつけ」ってなんでしょう？

子どものこころの専門家、児童精神科医の佐々木正美先生*1は、

しつけとは、社会のルールや文化を
子どもに教え伝えること

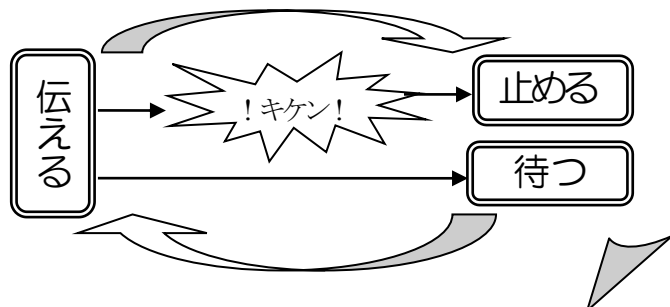


伝え方が大事！

であり、
その伝え方が大事である
とされています。

しつけのポイント

- ☆ うまくいなくても繰り返し **伝え続ける**
- ☆ 危険を伴う場合は、迷わず **止める**
- ☆ 子どもが理解してできるようになるまで **待つ**
(子どもがすぐにできなくても**あせらない**)



～子育て中よく出会う場面に例に～

☆伝える・伝え続ける

ことばで伝えたりやってみせて

⇒ できたらほめる！

⇒ うまくいなくても、くり返し伝える

例) お友だちのおもちゃをほしがったら「急におもちゃを取ろうとしてごめんね。」「終わったら貸してくれる？」と親が手本となって、やりとりの見本を見せましょう。
お友だちにおもちゃを貸せたら、たくさんほめることが大切。

☆止める

①止める ②防ぐ ③避ける

例)「たたく」「ものを投げる」など危険なことをしそうな時は ①すぐに止め、②いけないことを伝え、子どもの気持ちを受け止めながら、適切なやりとりを一緒に考えましょう。
まだ理解できないようであれば、③場所を変えて子どもの関心をそらせたり、気分を変えます。

☆待つ+あせらない

例)「自分で靴をはく！」など、まだできないことをやりたいと言った時は、なるべく待ってあげましょう。
できなくても焦ることなく手伝ってあげましょう。
子どものチャレンジ精神を大切に。
時間に余裕をもつことも大事。

子どもはしつけの場面を通じて

「やりたい vs. やってはダメ」
「やりたくない vs. やりなさい」
という葛藤を体験しています。

表面的には「親」とのぶつかり合いですが、
内面では「自分の気持ち」と奮闘中なのです。



そんな子どもを見守りながら「自分の気持ち」
をうまくコントロール出来た時には
たくさんほめてあげてくださいね。



参考文献*1：佐々木正美「子どもへのまなざし」福音館書店 1998

困ったり迷ったら、相談してみよう

お子さんの個性はさまざま。
色々工夫してみたけれど、
どうもうまくいなくて…という時は、
子ども支援センターすてっぷ21、
地域子育て支援センター、母子保健課に
気軽に相談してみてください。
お子さんの個性にあった接し方を、
一緒にさがしてみよう。